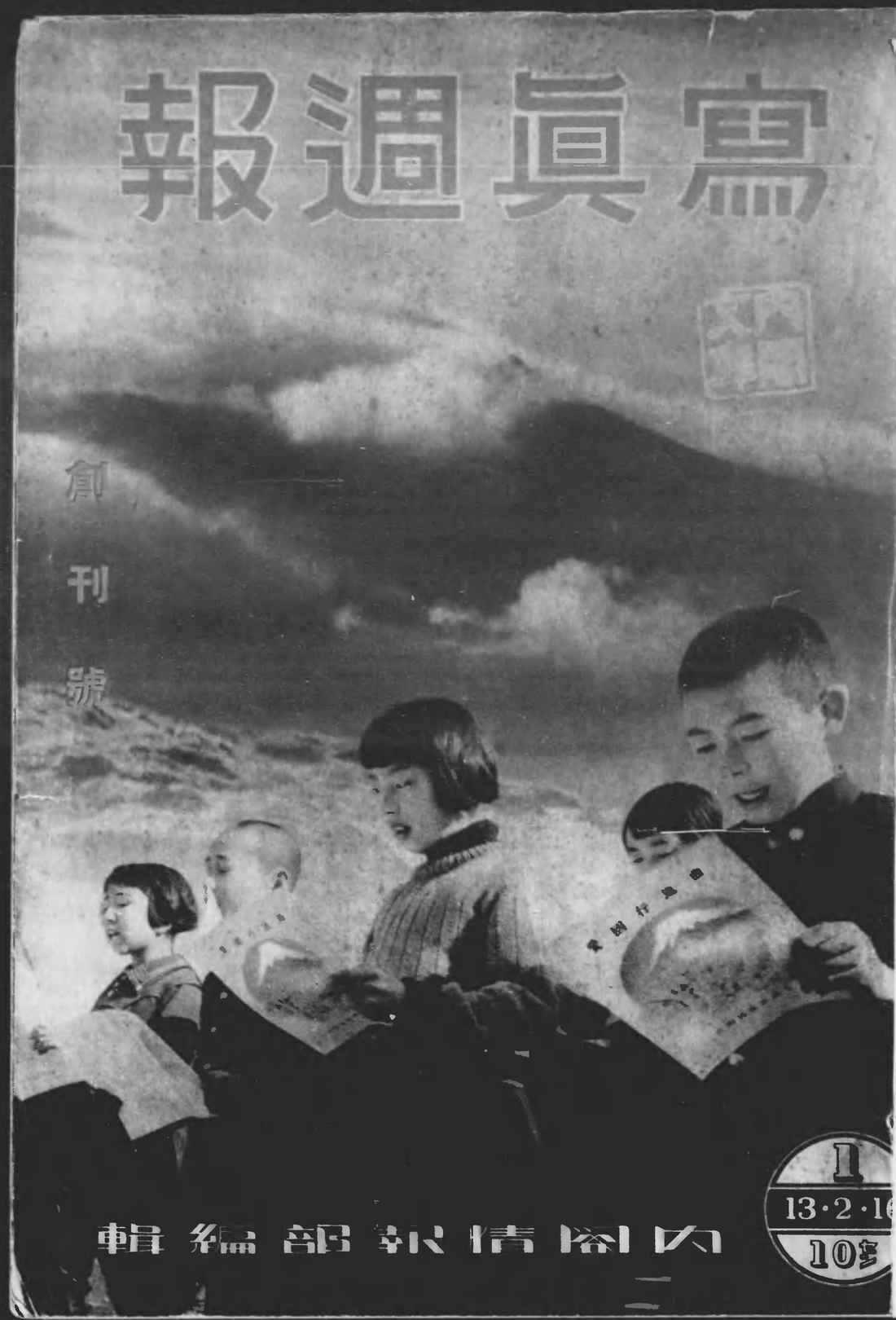
寫眞週報

創刊號



I
13・2・16
10錢

内閣情報部編輯

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

任重而道遠

文麿

敬神崇祖

動員

皇道

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

『お父さん勝つて』『兄さんしつかり』小い手を合せて祈る妻のいぢらしさ。小國民よ、戰は勝つた。だがまだ戰ひはつづく。仲間喧嘩なんかしてはいけない。みんな仲よく手をつないで、さあ勉強しやう。

うちこむひと鍬ひと鍬にこもる力肩にめりこむ土の重みも、戰線おもへば何のその、さあ來い！　吾等の行手を遮る何ものをも打碎かずにおくものか。――の意氣に燃ゆる青年團の勞働奉仕。かくて拓かれる東洋永遠の平和への道――

夫は戰地に、兄も戰線へ、留守を守る母が、妻が、妹が、野良の歸り、軍仕事のひまに鎮守の杜に集つて祈るは麗しいものたちの武運長久、戰ひの勝利、しんと鎮まる神域に虔ましく頭を垂れる、神と人との融け合つた素朴にして崇嚴なる日本の姿。

見よ！試練の日本・銃後の力

―靜岡縣田方郡西浦村・內浦村―

乙女心の紅襷をきりりと十文字、束ね髪に手拭、脚絆地下足袋も非常時姿、若き日の思ひも胸に秘めて、逞ましい手ながら掘る鍬にも銃後の力、出征勇士に家をおもはせまいとの優しい心づくしに、健氣にたち働く女子青年團の勞働奉仕。　蜜柑畑に早春の陽がさん〳〵と。

えいッやッの掛聲が大氣に響いて竹刀に大花が散るかとばかり。勞働の土にまみれた身を拭ひもあへず、再び流す汗の若さ。日本精神はここに培えあげられる。ひろびろと拓かれた大地に風は流れ、富士は白く悠然たり――農民道場のひとこま。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

慶祝中國更生

飜へる五色旗

⇨横濱中華公立學校の喜び。（横濱山下）

⇧帝都にも、華僑學校の五色旗。（東京豐島）

⇧商都大阪にも晴れて五色旗は飜へる。（大阪日川）

⇩一月八日。神戸在留の中華人は中華會館に新政權發祝の大會を開いた。（神戸）

⇨一月十七日、青島にも治安維持會の成立。生の五色旗は清淨な白雪に輝く。（青島）

⇧五色旗の旗のもと、双頰を更生にひきしめて。（北京）

⇨日語學校も開かれた、和平の春風が"イ"、"ロ"、"ハ"を乘せて。（濟南）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

厚生省とは

一歩何をする所ならうかと一健全なる精神は健全なる身體に宿るに長期持久の支那事變下、日本は一層健全なる精神と身體を求めてゐる。外に、近世史上曾つてない大事業をなしつゝある日本は、内に、國民個々の體力の向上、衛生の完備、病魔の豫防、社會施設、勞働の合理化、保險制度の普及に一層拂めなければならない。健全な日本民族となつた時の喜び、この喜びを生み出さうとするのが新設厚生省である。

建國體操（華山、國民體育館の冬期練習會）體力局

對手とせず

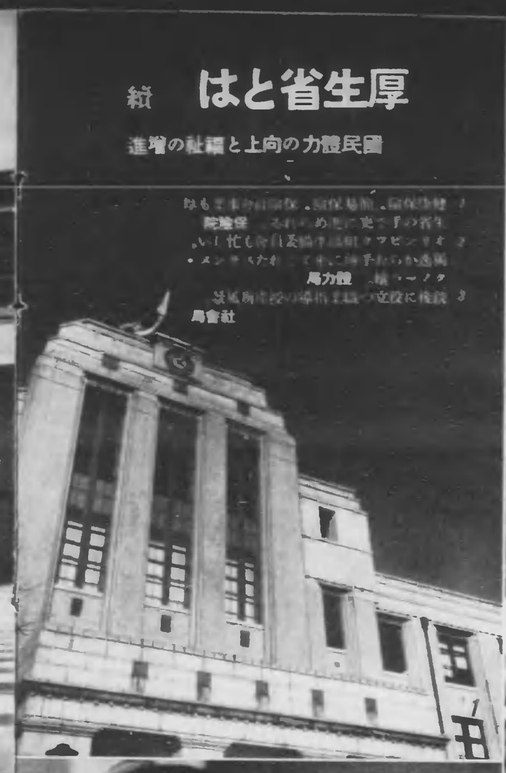
＝漫畫＝

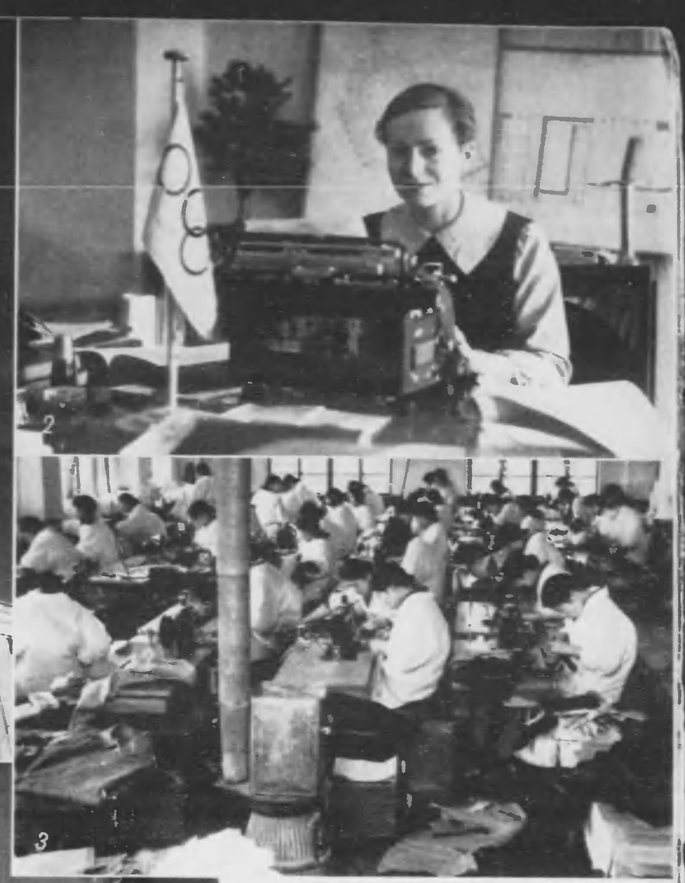
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

紹　はと省生厚

進増の社福と上向の力體民國

ゐもの事の福保。保保易簡。福保健 2
院施保 。それゆめ地に寒で手の省生
。いて忙も谷自丟婦寺活組クワビンリオ 3
。メンサくたか こてゆ。こ子手わらか逃病
局力體 。場ーノク
景風所住設の導指ま鍛ッ立設に複設 3
局會社





。てつよに後銭の塩保易簡は時常非の庭家 8
院施保 。
托は達供ゴつもを母く働 9
局會社 。へ所兒

業職 。うやし化理合も件條働勞 。生働働勞 4
小）局働勞 。だ業事の省生厚な切大も介紹
（てに所介紹働勞鈴一川石
事會社 。防檢の病染傳 。導指生衛の住食女
產 ,芝）局生衛 。に全完も療施のてしと業
（てに院兒乳會生
で村漁農 。もで場工 。もで社會 。もで職官 6
ノよへ鍛 。も女も男 。もき若 。もい老 。も
局力體 。を體身の等我
は談相助扶事軍の館面方 。體團方地職官各 7
局會社 。だり護の後銭な切大

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

戰線より故郷へ

——楽しい陣中だより——

拝啓、新年匂々のお便り〇〇にて浮手、御兩親様はじめ皆々元気にて御越年のこと何より嬉しく、小生も陣中ながら配給の雑煮餅に故郷を偲びつつ新年を迎へ甚なく勤いたし居候へば何卒御安意下され度候。思へば出征以来の事夢の如くに候。息をもつがぬ進撃に進撃、たゞ一途に敵をなびかしも昨日のことの如く今や冬の陣に入り、彼方のよどれに征旗はるかなる思ひ有之候。

陣中のとともとより不自由ながら、物資もいまは相當にゆきわたり、困苦の日々のうちにも戰線ならではの楽しみもまた深きものあり、小生御覧の如くいまでは一寸見られる程度を立て候もの元はこれ無性髭の名殘、暖い日向にて整用な支那人床屋に手入をさせつゝうつら〳〵と寂すもその一つ。戰場に殘された西洋浴槽に浸り、もとはコツタさんだつたといふ戰友の淹れてくれるコーヒーをのみつゝ過ぎしいくさ話に花を咲かす

"せさを入手に最床人那支な用器で"

"り浸に槽浴洋西たれさ理に場戰"

"ひ気の火焚の朝の營露"

"すは圍を棋將たつ遊て飯ルーポを時と一の暇の時動"

"はに便受便郵への場戰地"

"われもともとされ出"

"お弁当を開きする途に飯んで"

"陣中の楽しみの最たるものは慰問袋と故郷の便り"

もまた一興。動物の叫の一と時をボール紙で造つた時計をもはナんどもまた〻笑ましき陣中風景にて候。今日なほ出浸すろ殘敵の掃蕩にはかつての進撃にもまさる辛苦を味ひをり候も、かゝる間にも雲霞の敵の襲ひ、雷天に鳴むおでん鍋に横溢する野砲を味ふことは忘れ難く、戰ひの實れをタンタの陸にまどろみよと覺めて悠々たる白雲に見果てぬ夢を追ふなどもまた絶なりとは中すべきか。

さるにても陣中の楽しみの最たるものは慰問袋と故郷の便り、給水に、慢食受領にとそれ〳〵の動物また嬉しきうちにも野戰郵便局への郵便受領にはわれもわれもと志願者続出の有様、めい〳〵に配られた手紙を駒うちながらせつゝ開く時の嬉しさ御想像に余るもの有之候。これこそ戰線のわれ等を慰め且つ勵ますに入り故郷の皆様の御辛勞も一方ならず、と察し上げ候。この上ともどし〳〵慰上候。呵々、長期戰に入り故郷の帝國の運命を賭すこの時、戰線の方はわれ等ずつて引受け銃剣、銃後のことは兄々も宜敷く願上候。

"さし樂の類受食糧と水給"

"ひの愛れをタンタの陸にまどろみ"

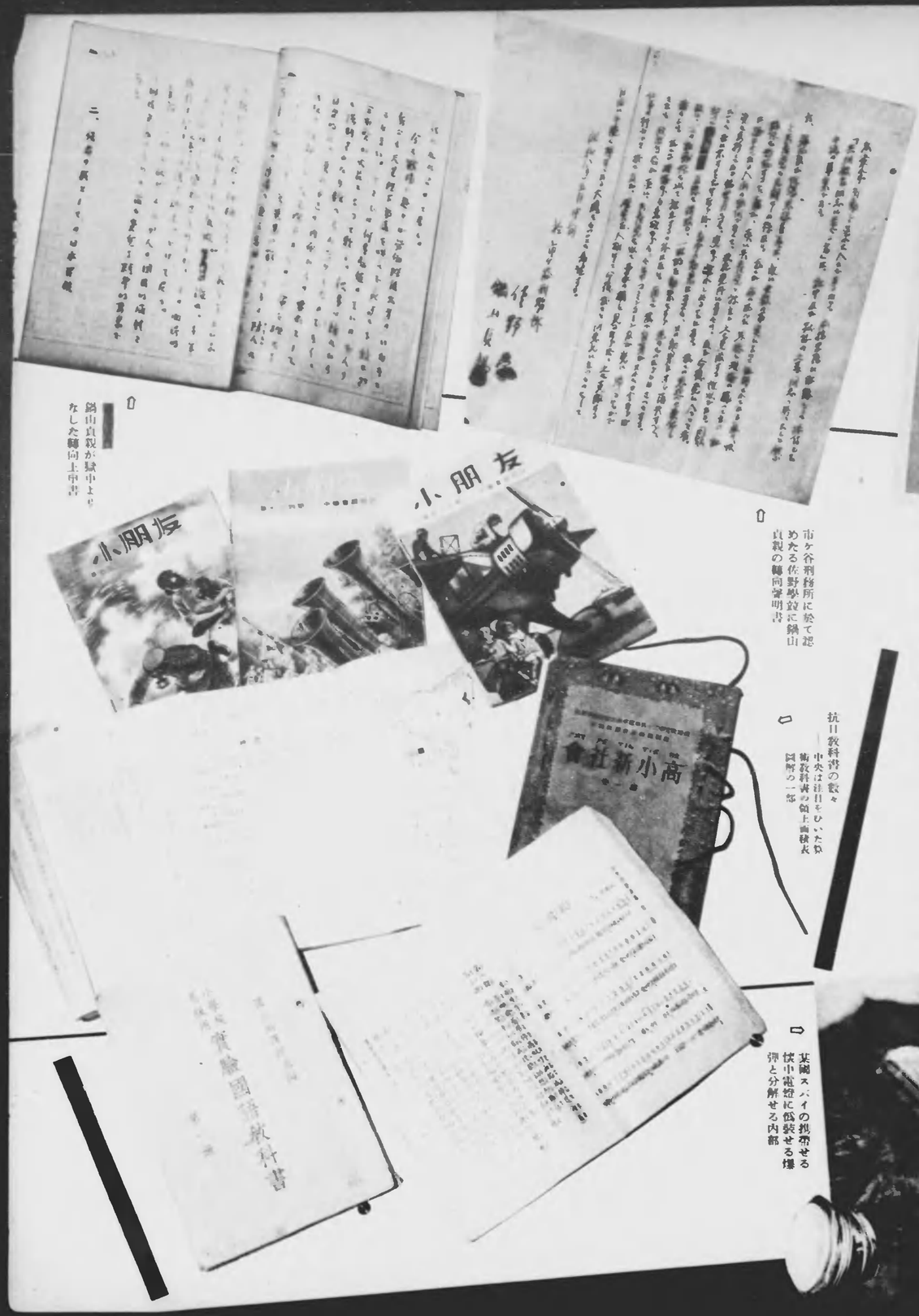
世界は動いてゐる

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

思想戰展より

國家の興隆は國民思想の健全にある。而して思想戰は現代國際角逐場裡に於て外交戰、經濟戰、武力戰等と共に平時及戰時を通じて行はるゝ鬪爭形態で、其の優劣勝負は國家隆替の岐る、所である。右に鑑み內閣情報部は思想戰展覽會を開催し、帝國內外に滿溢く思想戰の全貌を周知せしめ其の重要性を認識せしむると共に、日本精神の高揚を圖り擧國一致、外來の思想戰工作に對處し、時難克服に資する事となつた。此處に展示資料の中より若干を拾つて見よう。

會期　昭和十三年自二月九日　至二十六日
場所　東京市日本橋區　高島屋



鍋山貞親が獄中より
なした轉向上申書

市ケ谷刑務所に於て認
めたる佐野學等に鍋山
貞親の轉向聲明書

抗日教科書の數々
——中央は日月をひいた教
育教科書の卷上面積表
圖解の一部

某國スパイの携帶せる
懷中電燈に偽裝せる爆
彈と分解せる內部

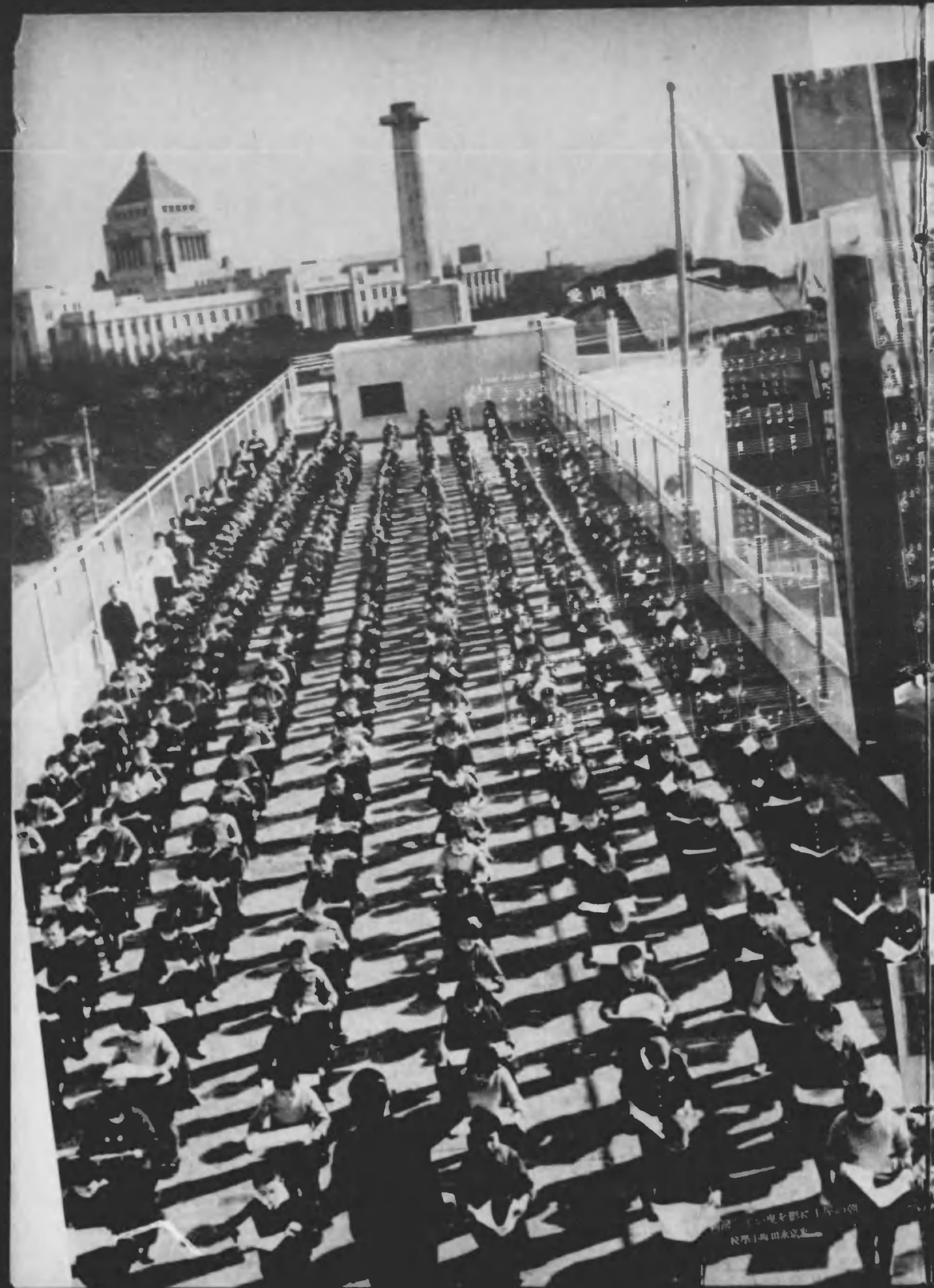
中華民國新政府の誕生を
寿ぐ極彩色ポスター

抗日教育に狂奔せる文
部小學校用「國旅掛圖」
右・左

抗日教育盛んなりし愛國女學校
學生の作文「抗日的基本答案」

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

街に溢れる愛國行進曲



の進行大・くまつけう調かく森
る出れ・・・出れる多"方抜く住
一座・・る神は直接に発展の人若

小僧さんもい節で

芸家からも
"斷呼と守れその正義"
—有樂座一月興行—

ひのひの「イ今朝に久歌と光」
博艶は南進行國愛・手奴・体を写・
白鷺又は・・・川機・・・もに

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

武器なき戰ひ
世界に渦巻く
思想戰展覽會

主催 内閣情報部
會期 二月九日より廿六日まで
會場 東京日本橋 高島屋

燦たり日本精神

國策のパンフレット
國民常識の泉

毎水曜日發行

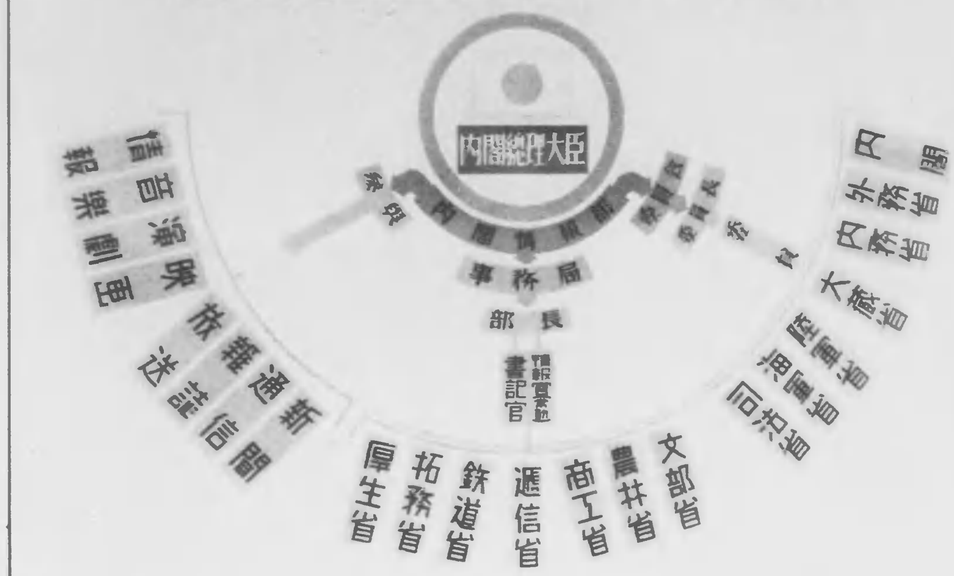
見本御希望の方は内閣印刷局宛御申出下さい

定價 一部 三錢 年極（前金）二圓四十錢 郵税不要

内閣印刷局

申込所
内閣印刷局
全國各地官報販賣所
東都書籍株式會社
最寄書店・郵賣店

内閣情報部の組織



創刊の言葉

嚮に内閣情報部に於ては週報を發行し、政府の行ふ政策の意圖内容を廣く一般國民に傳へて其の正しい理解を求め公正な輿論の醸を開き、又法令の趣旨や内容の普及を圖り、其の他政府の各機關に依つて得られる内外の情勢、經濟、學術技藝等に關する資料を公表して、政府と一般國民との折衝を緊密にし、公明な政治の遂行に寄與して參りました。皆様方の御理解と御後援とに依りまして登場色の週報は次第に廣く讀讀され利用されて來ましたことは編輯者として誠に喜びに堪えぬと共に又責任の重且大なるを感じて居るやうな次第です。

◇　◇

今般寫眞週報を發刊するに至りました所以も、全く前記週報の場合と同樣でありまして、只趣旨達成の手段として文字に代るに寫眞を以てしたと云ふに外なりません。即ち寫眞週報と週報とは車輪車、樂長補短、相密り相俟つて國民の啓發宣傳に資して行く心算です。週報が國策のパンフレットなら、寫眞週報は國策のグラフともいふべき姉妹誌であります。新たに誕生した寫眞週報に對しても週報と同樣の御理解御後援を願ひ度いと思ひます。

◇　◇

寫眞週報は官民各種寫眞關係者に全眞の大部分を開放し、これらを通じて得らるゝ寫眞を所謂調査の線に沿ふて内閣情報部が編輯するといふ事に致したいと思ひます。寫眞事業規定は次號に發表）

◇　◇

最近文章報國、言樂報國などといふ言葉があります、これらと同じ意味に於て寫眞報國といふことが當然考へらるべきです。恐らく皆様方の寫眞機並に其の材料の大部分は相當高價の代金を海外に支拂はれることに依り購れたものと思ひます。これらの寫眞機や材料の使用に依つて出來た貴重な寫眞を單に無意味に用ひ或は個人的趣味の範疇に止め置くことは誠に勿體無いことと思ひます。

私等は寫眞に依る啓發宣傳の極めて强力なるを想ひ、寫眞關係のものが、官廳も民間も、作家團體も個人の工房もあらゆるものが總動員されて、カメラに依りレンズを通して對外、對内の啓發宣傳に資し寫眞報國の實の擧がることを希望してやまぬ次第です。

◇　◇

創刊號はいはゞ初對面のやうなものでせう。自己紹介の意味で内閣情報部とはどんな仕事をしてゐるところかを説明致します。此の役所は内閣總理大臣の管理に屬し情報宣傳に關する各廳總攬の機關でありましてその職掌は

一、調査遂行の高處たる情報に關する各廳事務の連絡調整
二、内外報道に關する各廳事務の連絡調整
三、啓發宣傳に關する各廳事務の連絡調整
四、各廳に屬せざる情報蒐集、報道啓發の實施

であります。

昨年の秋、從來の内閣情報委員會が内閣情報部に改組されました時、世間の一部ではこれを宣傳省の成立に向つての一歩前進であるといふ話もありました。

かうした意味で寫眞週報を世に送り出しますのも、對内外の寫眞宣傳政策の一助として内閣情報部前進の第二歩と考へていたゞきたいのです。更に熱誠なる御支援をお願ひ致します。

今週のキヤメラ

表紙（高千穂に）鐵道省及國際寫眞協會
報道　木村伊兵衛氏
近衛内閣總理大臣　五十嵐與七氏
見よ試練の日本　特寫
鉄後の力
厚生省とは　梅本忠男氏
ラヂオ體操　特寫
戰線より故郷へ　同
世界は踊つてゐる　同
思想戰展を見る　同
街に溢れる國策　國際報道寫眞協會
愛國行進曲　木村伊兵衛氏

寫眞週報（禁轉載）

昭和十三年二月十六日印刷發行

編輯兼發行者　内閣情報部
東京市麹町區永田町
印刷者　内閣印刷局
内閣印刷局大臣官房内
印刷所　大日本印刷株式會社
東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二番地

一部　十錢
一ヶ年（前金）　四圓八十錢
（送料不要）
（外國郵便は實費を要する場合は六圓九十錢）

一ヶ年分未滿配送御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ左記へ御申込みください（編輯以外の事務は内閣情報部では取扱はず）

申込所　全國各地官報販賣所
東都書籍株式會社
最寄書店・郵賣店
寫眞材料店

寫眞週報
第三種郵便物認可　昭和十三年二月十六日發行　（毎週一回水曜日發行）　第一號

皇軍の向ふ所敵なし

富國徴兵

出征軍人は險保の供子
徴兵保險

本社　東京・日比谷
社長　根津嘉一郎

（本誌の大さは國定規格A4判）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/